

## 521 中央大学記念日学生会

〔「法学新報」第28巻11(325)号 大正7年12月1日〕

○中央大学記念日学生会 新校舎は竣成し秋気漸く満ちて学生の意気亦大に昂り創立記念日を卜して学生会挙行の議は学友会委員総会に於て決せられ十一月の十一日は来れり天気晴朗にして真に小春日向なりき予て定められたる「プログラム」に依り午後一時の振鈴と共に一同設けの大講堂に著席す会する者無慮二千名学生総代持田君に依りて熱誠なる開会の辞述へられ次て

佐藤幹事の紹介に依り創立当時の講師たりし植村俊平先生登壇して余は三十年前本学の前身英吉利法律学校時代に教鞭を採りし者なるか本学も世の推移と共に東京法学院と為り今の中央大学と改まり内容外形今や鬱然たる一大学と為りたり余の此校に來りし当時は日本は皆外国の模倣時代にして仏蘭西法学校、独逸法学校等ありて各外国の法律を教授せしか其後我法典成りて今日に至れり百般の事皆然らざるはなきか如く法律も亦時の勢力の消長に支配せらるるを免れず恰も歐洲普仏戦争に因る独逸の戦捷は独逸法学の旺盛を來し日本に於ても其法典を編纂するや主として独逸法制に依れり然るに今次の歐洲大戦は愈々聯合軍の勝利に歸したり此大捷の結果に依れば今後英米法制の研究を怠るへからざるは何人も想到する所なるへし我中央大学の如きは英吉利法律学校以來英米法系に属するものなれば此点よりして今後最も其研究に努力すへきの責任あるを感す云云と述へられたて松本博士は学長に代り今日の学生会を祝して曰く我校創立以來三十三年其間に在りて幾多の艱難に遭遇せしも事に當る者は常に不撓不屈の決心と學員学生諸君の同心協力とに依りて漸く今日あるを致し現に在学する者四千を算す諸君と共に其泰運に向ふを祝せざるを得ず況んや新に施行せられたる高等試験令に依り本学より登第したる者は私学中最多数を占むるを得たり又近く新大学令も制定せられ官学私学の障壁を撤して学界は益々自由競争に委せられんとす本学の如き質実剛健を学風とし内容充実を主義とするものに在りては其前途實に洋洋たるものありと信す学生諸君の一層奮励努力せんことを希望す云云と

斯くて余興に移り先つ丸一一座の太神楽は例に依り其奇術眼を驚かし滑稽頤を解かしめ次て細川風谷の講談「中村勘助」、小さんの落語「猫久」、高峯筑風の「川中島」等喝采声裏に演了し午後五時より校庭に設けられたる模擬店開かれすし、大福、うどん、そば、おでん、水菓子等各店は大集団の突撃に依り大入繁昌を極め一同満腹して愈々夜の幕は開かる長風山の支那手品は歓呼堂に充ち以て学生の余興に移り男声三部合唱は多賀、富田、大澤の三氏、齋藤氏の「ヴァイオリン」独奏「ハンザノルの夜の景」、明笛合唱富田大澤二氏、明笛独奏「思出の浜辺」富田氏、男声独唱「故郷の廃家」、「ホツカチオ」、「ヴァイオリン」独奏「千鳥の曲」と何れも拍手喝采中に演了し一同万歳を唱和して散会したるは午後八時過ぎなりし（委員報）